不入山麓物語

丈引割、小引割へ
丈狗高原へ
キビ
古くから焼畑農業を営み
ソバ、ヒエ、キビなどが作られていた。
特にキビは「喜美」とも書かれ
キビの生産のタイ少ないが
家の運命を決める重要な
食料であり、武器でもあった。
屋の柵にかけて乾燥させた。
1.8平方を「一ケンマ」として
農家の経済力を示すものと
されてきた。
寺川
ムササビ
北川川
芳生野
枝ケ谷
郷地区
口目ケ市
王在家
平成会館
断崖をくり抜いた
森林軌道遺構
足川川
岩戸隧道
東屋
WC
紅葉谷橋
不入山開山
ずい道
雨の日に表れれる滝
不入渓谷
不入山林道
小筋畝山
小筋畝山はコウヤマキの
林木遺伝資源保存林。
コウヤマキの原生林が
のこされている。
耐朽性が強く船材や
土台、風呂として使われる。
日本書紀に、木の神
スサノオノミコトが抜いた
尻毛が植になったと記される。
高野山にタイことから
この名が付いた。
キツネノカミソリ
夏
小筋畝山コウヤマキ保護林
大王コウヤマキ
ムササビ岩
森林軌道の橋跡
不入渓谷一望。カルストし見える。
深い谷
四万十川東源流
木材搬出は
命がけの仕事。
山師たちは自分の
命をあずける
トビやツルは他人には
絶対にさわらせなかった。
トビ
ツル
森林軌道
かつて木材搬出には森林軌道が利用されていた。
不入山も、敷設時期は不明だが、昭和28年～
39年まで活躍していた。
5.235mの延長があった。牛馬～トロッコへと
運搬動力が変化していった。広線後はトラックへ変っていく。
軌道跡
参考文献
「高知の森林」
ヤマセミ
不入山1,336m。周辺の
山々より、ひときわ高く
そびえ立つ。
約千ヘクタールの国有林。
19世紀はじめの文化年代、船戸～
世者への通路が開かれた。
うっそうとした森林の中を通るので
昼なお暗く、よくタヌキにばかされる
ため「くらがり谷」と呼ばれていた
ところもある。
タヌキにばかされるということは、人に
自然と交信する能力があったということ。
テレビが普及して、その能力が失なわれた。
国道439号
矢筈峠
県道378号
矢筈トンネル
風力発電の風車が
空に映える
津野山あめご
パーマークが6～8、目が大きく
口が短い特徴がある。
水のこども
みくまりちゃん
森林の中で"森"の
いのちはとぎれる
ことなく巡る。
一年にも四季があり
ひと巡りしてきた
ところで樹林に
輪廻ができるように。
いのちの輪がつながる。
義堂と絶海
14世紀、義堂周信と絶海中津が
船戸近くに生まれる。ともに秀才で、のちに
五山文学の双璧と称えられる。
二人とも五台山、吸江庵の開祖、夢想疎石の
弟子となり、仏門に入り禅を極め
絶海の生まれた年が1336年!!
不入山の標高と一致している。
不入山麓の豊饒に生い育った二人の
活躍は大自然、不入山から
出ずる文化であった。
ゲート
森の巨人百選
モミノキ
船戸林道
沢の岩は一面苔におおれ
苔の先端からぽつリ×2と
おちる滴があつまって
渓谷を流れる。
その美しい一滴に
息をのむ。
樹雨(きさめ)
霧が葉、ほずに
たまって林内に
しずくがおちる。
数ある雨の中で
もっとも静かだ。
黄緑色の
しずく
槙尾根コース
南一周コース
幽谷コース
長だるの滝七色の滝
落差36.2m
四万十川源流保護林
源流点
源水点
太郎坊
ヒノキ
ススダケ
不入山
1336m
ヒメシャラ
サワクルミ
四万十川裏源流足川源流
四万十川の源流であり
巨木と苔と水のあふれる深山。
苔むした谷、深い樹林。
山頂からは鳥形山～石鎚
方面、船戸方面眺望できる。
一等三角点、と示がある。
清流生まれいずむ秘境の森林を
不入山と異れ、輝きそのせせらぎを
懐ふかく揺らんとして大河にと育む。
せいらんの里
龍神伝説
稲葉洞
西の千本
明治30年頃秋の天林
東の魚梁瀬千本山に
次ぐ西の千本山と
いわれる貴重な
造林地。
2013.7.25